

平成30年2月7日

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ  
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全  
 (コード番号：8732 東証第一部)  
 問合せ先 取締役 C F O 中西 典彦  
 (TEL. 03-4540-3804)

### 平成30年1月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成30年1月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

#### 記

年 月	平成 29 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
営業収益 (単位：百万円)	458	412	521	469	488	449	404	489	539	483	482	607
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	95,875	77,214	75,386	63,192	72,786	82,184	88,166	117,248	143,437	115,410	122,896	81,853
外国為替取引口座数 (単位：口座)	292,553	294,472	296,861	298,467	300,139	301,557	303,106	304,509	306,001	307,465	308,647	309,873
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	60,221	60,814	60,325	59,995	61,529	62,091	62,774	63,253	64,734	63,512	61,675	61,378
一般顧客	49,392	49,446	49,784	50,108	50,819	51,353	52,431	53,410	54,057	55,014	55,820	55,367
金融法人 (B to B)	10,828	11,368	10,541	9,886	10,709	10,737	10,342	9,843	10,676	8,498	5,854	6,010
マネバカード口座数 (単位：口座)	(非開示)		73,733	77,503	81,189	85,019	90,702	97,327	101,409	104,187	107,082	110,964

年 月	平成 30 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
営業収益 (単位：百万円)	552											
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	142,982											
外国為替取引口座数 (単位：口座)	311,645											
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	62,789											
一般顧客	57,073											
金融法人 (B to B)	5,716											
マネバカード口座数 (単位：口座)	116,830											

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
2. 外国為替取引口座数、マネバカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 平成23年8月より差金決済取引 (CFD) の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高 (原取引単位を米ドルに換算) 及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとB to B取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。

#### < 1月次の概況 >

1月の外国為替市場は、米ドル／円については、1ドル＝112円台半ばで取引が始まり、上旬は概ね前月までと同様値動きの小さい相場推移となったものの、9日に日銀による国債買入れの予想外の減額が通知されると、量的金融緩和の縮小への思惑から円が買われ、更に翌10日には米国が北米自由貿易協定の離脱の通知を検討しているとの報道等から米ドルが売られる展開となり、15日には110円台前半をつけました。その後、日米の株式市場の高騰を背景に米ドルが買い戻される局面はあったものの、26日には月の安値となる108円台前半をつけるなど、日銀の量的金融緩和の縮小への思惑や米国通商政策への懸念等からドル安円高が進展し、109円台前半で月末を迎えました。一方、米ドル／円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨についても、ドル売り、円買いの動きの中で値動きは回復し、米ドル／円を含めた全体としての変動率は、平成29年10月以来の極めて低い状況を脱する水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は、前月比74%増加の1,429億通貨単位となりました。一方、相対的に収益性の低い米ドル／円の取引高割合の増加や前月の年末特殊要因による収益の底上げ効果の剥落等により全体の取引高当たり収益性が元の水準に戻った結果、営業収益は552百万円と前月比9%の減少となりました。また、顧客基盤については、外国為替相場の変動率の回復につれて、外国為替取引口座数は前月比1,772口座増加の311,645口座、マネパカード口座数は前月比5,866口座増加の116,830口座と増加ペースが回復した一方、外国為替取引預り証拠金も、ドル安円高局面における顧客ポジションの増加等に伴い前月比1,411百万円増加の62,789百万円となりました。

以 上